

第2編 財政計画

第2編 財政計画

1 財政計画（一般会計）

（1）歳入

（単位：百万円）

| 項目 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 1 地方税 [※] | 29,186 | 29,050 | 29,337 |
| 2 地方譲与税 [※] | 426 | 432 | 432 |
| 3 各種交付金 [※] | 6,255 | 5,861 | 6,271 |
| 4 地方交付税 [※] | 10,855 | 11,278 | 10,607 |
| 5 国庫支出金 [※] | 15,388 | 15,993 | 15,920 |
| 6 県支出金 [※] | 6,798 | 6,848 | 7,317 |
| 7 市債 [※] | 3,853 | 4,545 | 3,772 |
| 8 繰入金 [※] | 1,840 | 1,128 | 1,101 |
| 9 その他 | 5,338 | 5,333 | 5,316 |
| 歳入合計 | 79,939 | 80,468 | 80,073 |

その他は、分担金・負担金、使用料・手数料、財産収入、寄附金、繰越金、諸収入の合計額

（2）歳出

（単位：百万円）

| 項目 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-----------------------|--------|--------|--------|
| 1 義務的経費 [※] | 17,813 | 17,813 | 17,460 |
| (1) 人件費 | 8,856 | 9,143 | 9,038 |
| (2) 公債費 [※] | 8,957 | 8,670 | 8,422 |
| 2 主要事業経費 | 31,370 | 32,066 | 30,855 |
| 3 一般事業経費 | 20,172 | 19,993 | 21,160 |
| 4 他会計繰出金 [※] | 10,584 | 10,596 | 10,598 |
| 歳出合計 | 79,939 | 80,468 | 80,073 |

注) 本票記載の計数は、経済動向等の影響により今後精査を行う中、変更となる場合がある。

2 財政比較分析（令和3年度普通会計決算）

（1）財政力

| | 中核市 | | | 甲府市 | 順位 | 県内市平均 | 全都市平均 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 最大値 | 最小値 | 平均 | | | | |
| 財政力指数※ | 1.419 | 0.479 | 0.786 | 0.735 | 43/62 | 0.564 | 0.630 |

●値が高いほど財政力が強く、1を超えると普通交付税の不交付団体。

【分析】

標準的な行政活動を行う上で、7割方は自前資金等が確保できる状況となっている。

中核市平均との比較では0.051ポイント低いが、県内市平均及び全都市平均との比較では、どちらの数値よりも上回っている。

（2）財政構造の弾力性

（単位：％）

| | 中核市 | | | 甲府市 | 順位 | 県内市平均 | 全都市平均 |
|---------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| | 最大値 | 最小値 | 平均 | | | | |
| 経常収支比率※ | 96.6 | 80.3 | 88.7 | 88.8 | 33/62 | 86.0 | 88.4 |

●値が高いほど財政構造が硬直化していることを示す。

【分析】

公債費や扶助費の増はあったものの、地方交付税及び臨時財政対策債が大幅な増額となったことなどにより、前年度と比較すると7.0ポイント低下した。

中核市平均及び全都市平均とは同程度、県内市平均と比較すると高い水準となっている。

今後も社会保障関係費の増が予想されることから、経常経費の削減や市税収納率の向上等により、経常一般財源の安定的確保に努め、比率の低下を目指す。

（3）公債費負担の健全度

（単位：％）

| | 中核市 | | | 甲府市 | 順位 | 県内市平均 | 全都市平均 |
|----------|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| | 最大値 | 最小値 | 平均 | | | | |
| 実質公債費比率※ | 13.2 | 0.0 | 5.5 | 7.6 | 43/62 | 9.2 | 6.8 |

●3年間の平均値が25%を超えると地方債の発行が制限される。

●実質公債費比率がマイナスの場合は「0.0」として表示。

【分析】

大型事業の元金償還開始等により、単年度では対前年比0.7ポイント上昇、3か年平均では、0.6ポイント上昇した。

県内市平均と比較し1.6ポイント低いが、中核市平均と比較すると2.1ポイント高い状況であることから、引き続き、計画的な市債発行による市債残高の抑制に努める。

(4) 将来負担の健全度

(単位：千円)

| | 中核市 | | | 甲府市 | 順位 | 県内市 平均 | 全都市 平均 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|-----------|
| | 最大値 | 最小値 | 平均 | | | | |
| 地方債残高 [※] | 681 | 122 | 396 | 413 | 33/62 | 520 | - |

●市民一人あたりの地方債現在高。

【分析】

普通会計における市民一人あたりの地方債残高については、687人の人口減少により一人あたりの残高の増はあったものの、市債借入額の減少に伴う借入残高の減により、前年度と比較すると6千円の減となった。

県内市平均よりは低いものの、中核市平均と比較すると高い状況であるため、今後も計画的な市債発行により、市債残高の抑制に努める。

(単位：%)

| | 中核市 | | | 甲府市 | 順位 | 県内市 平均 | 全都市 平均 |
|-------------------------|-------|-----|------|------|-------|-----------|-----------|
| | 最大値 | 最小値 | 平均 | | | | |
| 将来負担 比率 [※] | 161.0 | 0.0 | 36.9 | 41.6 | 40/62 | 30.6 | - |

●将来負担比率が350%を超えると早期健全化団体となる。(将来の負担額を指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示す)

【分析】

公営企業債等繰入見込額の減や地方債現在高の減に伴い将来負担額が減となったほか、普通交付税や臨時財政対策債発行可能額の増による標準財政規模の増や、充当可能基金の増などにより、対前年比で16.6ポイント低下した。

今後、市債残高は減少していく見込みだが、事業精査により引き続き計画的な市債発行により、市債残高の抑制に努める。

| | | |
|------|------------|-----------------|
| 人 口 | 185,751 | 人 |
| 面 積 | 212.47 | km ² |
| 歳入総額 | 88,111,485 | 千円 |
| 歳出総額 | 84,130,075 | 千円 |
| 実質収支 | 3,656,734 | 千円 |

注)なお、人口及び面積は令和4年3月31日現在

